

ISSN 0387-7280

**国際日本文学研究集会会議録 (第21回)**

PROCEEDINGS OF THE 21st INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON JAPANESE LITERATURE  
(1997)

**国文学研究資料館**

NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE

**PROCEEDINGS OF THE 21st INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON JAPANESE LITERATURE**

**1997**

**National Institute of Japanese Literature**

1-16-10, Yutaka-cho, Sinagawa-ku,

Tokyo, 142-8585

# 第21回

## 目 次

挨拶	松野陽一	2
<b>研究発表</b>		
保胤『池亭記』の隠棲思想	劉魯平	9
日・韓における伝承のあり方 —「さよひめ」説話と「堤上」説話—	金京欄	21
泉鏡花「響の一心」論 —自筆原稿との比較を通して—	魯惠卿	37
「二世」から見る、戦前における台湾文学 —周金波、川合三良を中心に—	唐瓊瑜	55
『吉里吉里人』における国家形成と 主体性の喪失	Christopher ROBINS	69
越境する文学 —方法としての「由熙」—	顧偉良	81
<b>特集「境界と日本文学—ジャンルの交流—」</b>		
谷崎潤一郎「陰翳礼讃」における 大衆文化の表象	中根隆行	99
『風の又三郎』における〈重ね書き〉 —昭和15年日活映画の受容に着目して—	米村みゆき	114
人文と科学：最後の境界を越えて	Timon SCREECH	130
セッション討議		143
<b>公開講演</b>		
本文・注釈・絵	今西祐一郎	145
和歌から説話を見る —唱導史の観点を中心にして—	Hartmut O. ROTERMUND	164
<b>記 録</b>		
第21回国際日本文学研究集会		182
参加者名簿		183
国際日本文学研究集会委員名簿		187

## 挨拶

松野陽一

今年度から館長になりました松野と申します。よろしく願いいたします。

国文学研究資料館はできてから二十六年経ちます。研究もやっておりますが、まずは国文学の資料を調査・収集するというのが第一の基本的な仕事でございます。その資料収集は江戸の終わりまでのものを集めるのが基本でございましたから、専任の教官にも古い時代をやる人ばかりで、近代を担当する人がいなかった。そのため、全体的な印象として古いものをやっているのが国文学研究資料館だということがあったかもしれません。

その中で私どもで出している『国文学年鑑』という研究情報を集める出版物は、近代を含めて扱っておりまして、ご利用いただいた方も多いかと思えます。そして、この国際日本文学研究集会、これは最初から近代のご発表が多かったので、これがもうひとつの我が館の近代に対する窓だったわけです。ところが、先ほど申しましたように、館内に近代の研究者がいなかったものですから、やむをえず館外の近代文学・現代文学を研究する先生方にいろいろなかたちでご支援をいただくということでやってきたわけです。が、今年の十月から当館にも近代を担当する部屋ができました。まだ担当者は一人しかおりませんが、着々と体制は整っていきたくらうと思えます。この会もある程度館

内の人間が担える時代にやっと入ることができたということになります。このことは当然古典の方にも大事な影響が及ぶはずでして、古いところから近現代に及ぶまで一貫して対応できるような体制をなるべく早く作りたいと思っておりますし、そのためにもこの会が活発になってほしいと願っているところであります。

去年は大変活況を帯びる会が催せたと思います。それは企画の武井さんらの工夫によるところですが、招待研究発表をやりましたり、セッション討議に工夫を加えたりということがあったからかと思います。今年も、今西先生、ロータモンド先生のご講演、それからスクリーチ先生の招待研究発表が明日に控えております。今日これから始まる発表にも面白そうなものが並んでいるわけでした、どうぞ活発な会にさせていただくようお願いしたいと思います。

発行

平成10年10月

編集兼発行者

国文学研究資料館

〒142-8585 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 3785-7131(代)

FAX (03) 3785-7051

印刷所

株式会社 三協社

〒164-0011 東京都中野区中央4-8-9

電話 (03) 3383-7281